

□10月12日説教(隅野徹牧師)短縮版「さあ、見に来てください」(ヨハネ4:25～42)

35節でイエスが弟子たちに話された「刈り入れまで、まだ4か月ある」という言葉。これは、当時のイスラエルの実際的な格言なのだそうです。「種まきをしてから、刈り入れまでは4か月かかる。その間はのんびりしていよう。真面目に働いても意味がない」というような意味だそうです。

しかしイエスは言われます。目を上げて畑を見上げるなら、刈り入れる実りがたくさんあることに気づくのではないかと。これは、39節以下の出来事をあらかじめ預言されたものです。つまりサマリアの多くの人々が女性の証言を聞き、ここに救い主がおられるかもしれないという求めをもって、イエスのもとを訪ねてきた。そしてイエスの話を聞いて、多くの人が心から救い主として受け入れたという、感動的な出来事です。

弟子たちは思っていたことでしょう。土着宗教が強く、民族的対立のあるサマリアで福音の種を蒔いても、その苦労は報われないと。その心を見透かして、イエスは「あなたがたは、刈り入れまでまだ4か月もあると言っているではないか」と言われたのですが、この言葉は私にも語られているのではないかと、痛切に感じさせたのです。伝道が進まないように見える現状の中でも、刈り入れを待っている実りは沢山あるということを、神はサマリアの女性との対話や、彼女に端を発してたくさんの人がキリストを信じた出来事を通して示して下さっていると感じました。

36節にあるように、刈り入れこそが永遠の命に至る実りの収穫であり、神からの霊的な報酬や喜びが与えられることです。種を蒔いただけで放置してしまったら得ることのできない報酬、喜びが、刈り入れにあるのです。(終)